

おはなし散歩道

おばあちゃんの七草粥

柏市 木村 研

暮れから泊まりに来ていたばあちゃんが、「お正月気分も終わるだな。ゆうたも学校が始まるし、そろそろ田舎に帰ろうかね」と、言い出した。

「これから寒くなるのに」と、お母さんが止めたけれど、言い出したら聞かない。

「ゆっくり休ませてもらったから、もう大丈夫。皆も待っているだろうから、やっぱり、明日帰るよ。だから、朝ご飯は、ばあちゃんが作るよ。」

「ばあちゃんか?」「ああ。七草粥だけだよ。」「ななくさがゆ?」

ゆうたが不思議そうな顔を見ると、お母さんが、「忙しくて、七草粥なんて作ったことなかったか

ら、ゆうたが知らないのも無理ないわね」と言っただけで、七草粥の説明をしてくれた。

「昔から、一月七日の朝に春の七草を入れたお粥を食べる風習があるのよ。」

「春の七草?」「せり・なずな・ごぎょう・はこべら・ほとけのざ・すずな・すずしろよ。」

なんだかよくわからないけど、楽しそうだった。次の日の朝、ゆうたが茶の間においていくと、ばあちゃんが、おかあさんのエプロンをつけて台所に立っていた。

「できたよ。ゆうたの口にあうといいけどね。」ばあちゃんが、茶碗にお粥をよそってくれた。「おつ。七草粥か。なつかしいなあ。」

「あつ」と、あわてて水で流し込んだ。「何も、そんなに慌てなくて」と、ばあちゃんが、くすくす笑った。

ゆうたは、野菜がニガテだったから、恐る恐る口に入れてみた。すると、ベトナム料理かタイ料理みたいな香ばしい香りがする。

この味、嫌いじゃない。ゆうたが、お代わりをすると、お母さんが、「野菜、大丈夫じゃない」と、言った。

「七草粥は、昔の人の知恵で、お正月に美味しいものをいっぱい食べた胃を休ませるために考えたのだから、無理なんだよ。だから、今年も元気で過ごせますようにと食べるんだよ。」

「へー。何だかききそう。な気がしてきたよ。」ゆうたが言うと、ばあちゃんも、「これは、スーパーで買ってきた七草だけど、昔は、みんな表でさがしてきたんだよ。それで作った七草がゆだから、おいしい

かったねえ」と、言った。「うちの回りです?」「そういえば、子どものころ、おやじと一緒に七草をつみにいったなあ」と、横からお父さんが懐かしそうにいった。

「へえー。おもしろそう!」「じゃあ、七草をつみに来るかい?」と、おばあちゃんが言った。「自分でつむの?」

「ああ。でも、今は、まだだめだ。一月七日といつても、昔の暦じゃないと、七草はそろわないんだよ。」

「昔の暦?」「ひと月遅れだから、二月になったら遊びにおいて。それなら、全部そろうから。ばあちゃんが、とびきりおいしい七草粥を作つてやるよ。」

「へえー!」ゆうたは、目を丸くして、「行く行く。ぜったい行くよ。ね、お父さん」と、言った。「ああ。そうするか。田舎に帰つたばあちゃんが、無理してるといけないか

ら、様子を見に帰るか」と、お父さんが笑った。「やった!」

ゆうたは、お母さんに「サインをつくらせて、今年も、もう七草粥を食べたから、二回目になるでしょう。だから、二年分元気になるね。ばあちゃんも、二年分元気になるよ」と、言った。

「そりや、ありがたいねえ」と、ばあちゃんがいうと、お父さんとお母さんは、顔を見あわせてふきだした。

だから、ゆうたも一緒に笑った。



(おわり) (挿し絵・小出 茂)

高尾山物語 9

戦国期の高尾山

絵・橋本豊治



本尊は医王如来の霊像、草創以来捨(拾?)数層を巻かん、建立誰人を知らず、前代は金銀を以つて磨ける塔塔有り、坊千余

『高尾山薬王院の歴史』外山徹 三十四〜三十五頁

薬師堂修造勧進の文面より

俊源大徳による高尾山中興後、実際の高尾山の様子を伝える史料が現れてくるのは、小田原北条氏の三代目当主、北条氏康の時代となります。

高尾山に残されている最古の史料は戦国期(室町時代後期から安土・桃山時代)のものであり、江戸時代以降の史料と合わせて、『高尾山薬王院文書』と称されております。

高尾山は北条氏から寺領の寄進を受けるなどの庇護のもと、伽藍を整えて各地から信仰を集め、隆盛を誇るようになったと伝えられています。

しかし、一五九〇年に豊臣秀吉により北条氏が滅ぼされた後は、相当な窮乏に陥つた様子を伝える資料も残されており、寛永の高尾山再興の時代まで、苦難の時代を迎えることとなりました。

余りその人 知らないのなら その友を見よ 分るから

第六回 八王子シヨートフィルム 映画祭開催

十二月三日(日)於八王子日本閣

去る十二月二日、八王子日本閣において、第六回八王子シヨートフィルム映画祭が行われました。

この映画祭は八王子日本閣の中村忠正社長が発起人となり、「名もない新人映画人たちの登龍門として、未来の巨匠を夢見る若者たちが集い来る『祭典』を目指す」という趣旨で、二〇一三年から行われております。

撮影は八王子市内で行われており、高尾山も舞台の一つとして作品内に登場しました。

一般部門では、『カセットテープ』の松本勲監督がグランプリを、『父、かえれ!』の武石昂大監督が準グランプリを、それぞれ受賞されました。

歴代のグランプリ受賞者には、『カメラを止めるな!』で知られる上田慎一郎監督も名を連ねて



懇親会での上田監督(左)と中村社長

おり、当日も懇親会に参加されました。

八王子観光コンベンション協会の大野彰会長によりまして、「文化、歴史そして自然に恵まれた八王子で映画監督を養成することを通じ、八王子の持つ持っている伝統文化や歴史的な街並み、高尾山等の緑あふれる自然を紹介しながら、『映画』というコンテンツを利用して八王子の街づくりに生かしていきたい」とお話しされておりました。